

伝統家具の試作研究

— シェーカー家具 (II) —

上原守峰* 中村寿一*

アメリカ東部地方に最盛期19カ所5,200人いたシェーカー教徒は現在ではわずか2カ所に婦人のみ8人の教徒を残しているのみで、このコミュニティは幕を閉じようとしている。彼らの創り出した家具工芸品類は、装飾を排した簡素で機能的なデザインなので現代家具工芸品に形や構造など強い影響を与えている。そこで当試では5カ年計画で、無数にある彼らの家具の中から美しく機能的なものを選び出し、寸法を日本人の生活に合わせて復元している。

1. はじめに

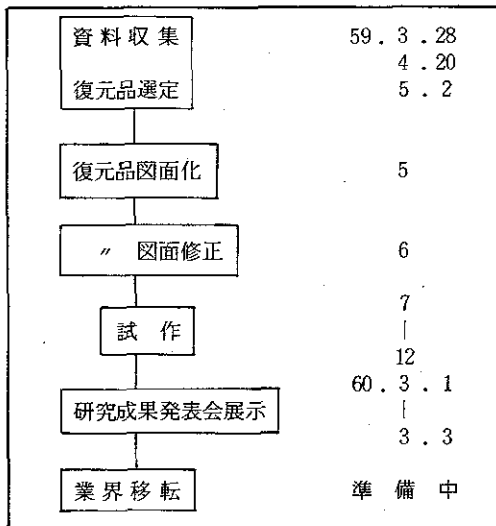
本県に洋家具製造の伝統を確立するためには、まず様式の確立した欧米の家具を日本人の体型に合わせて復元することが重要である。

昨年からアメリカの伝統家具として人気が高く、研究書籍も数多いシェーカー家具を復元試作しているが、確かに構造・スタイル等において伝統の深さを感じとれる。

来年度も引続きこの家具を研究し、伝統ある鹿児島県の民芸家具としての基盤づくりをしていく。

2. 概要

(1) 復元のフローチャート



(2) 協力者

・藤上知弘氏 (ラ・サール学園修道士) …資料提供・助言

(3) シェーカー教徒の略歴と現在

1774年にアン・リーに率いられた少数のシェーカー教徒が、イギリスからアメリカ東海岸に移住した。彼らは独特の戒律のもとに厳格で質素な生活態度で、世間から分離してコミュニティを形成した。最盛期には19カ所

5,200人もの教徒が生活する中でシェーカースタイルともいうべき、装飾を排した簡素で機能的なデザインの日用品や建築が生みだされた。2世紀後の現在、わずか2カ所に婦人のみ8人の教徒を残してこのコミュニティは幕をとじようとしている。

(4) シェーカー教徒の格言と戒律

・機能主義

すべての力は形態を生む。それがデザインされた目的に完全に応えるものはすべて、正しく完全なものと呼ぶことができる。一つの円は、それが完全に丸い時、完全な円と呼ぶことができる。一個のリングは、それが完全に無傷で内部に欠陥のない時、完全だということができる。他の多くのものについても同じである。我々は、いろいろと試み最良のものを見つける。そして良いものを見つけた時、それをあくまで守りとおす。モノサシは訓練と完全の象徴であって、それなしではものは作れない。

・美

規則正しいことは美しい。調和の中には大きな美がある。秩序は美の創造物である。美を愛することは道徳の力と共に活動の分野を広げる。美は有用性に宿る。使用することを基本としていない美はすべて、やがて不愉快なものとなり、いつも新しいものと取り替える必要がある。それ自体高い利用度を持つものは、大きな美を有している。

・誠実な良い仕事

教会の下で自らのために行なうすべての仕事または作るすべてのものは、充分誠実になされ、しかもぜいたくでなく簡素なものでなくてはならない。すべてのものはその秩序と用途に従って、慎しみをもち整然としていなければならない。販売用に作るすべてのものは完全に作られ、その用途に適していなければならない。

- ・不必要物

何であろうと作るものは、すべて簡素で単純なものに
しなさい。そしてそれはやがてあなたの使命となり職業
となる完全で本質的な質を持っていなければならず、良
さや耐久性に何の役にもたない余分なもので紛飾され
ていてはならない。

(5) 復元の目的

- ・幕をとじようとしているシェーカー家具を復元し、形、
寸法、色、表面処理、材料、構造などを研究して、本県
でアメリカの伝統を引き継ぎ製造販売する。
- ・彼らの手法をマスターし、現代家具工芸品に応用する。
- ・モノづくりの思想を学ぶ

(6) 復元時の注意事項

アメリカでは復元されたものが骨董市場に出回ること
があり、不当な販売がなされている。日本では、作る人
も少なくそのような例はないが、原物と区別するため、
製作者名と製作年代を裏にほりこんでいる。

(7) 復元する家具のコミュニティーと年代

- ・ニューレバノン

シェーカー家具といっても長期間にわたり各地のコミュ
ニティーで作られた形は、材料が異なったりプロポーショ
ンも美しいものから素朴なものまでさまざまである。形
の点では、家具づくりの中心がニューレバノンであり、
ここから他の地域に技術が波及していったことや、美し
く機能的であることも考慮すると、復元するにはこの地
域が妥当である。

- ・1830年代

家具の様式的完成は1830年頃であり、それ以前では伝
統的スタイルを引きずっており、又1800年代後半以降
では教義に反し装飾を加えた無残なものがつくられて
いる。

(8) オリジナルの修正

シェーカー家具のもつ本質的な雰囲気損なわぬよう
注意しながら外観と寸法の修正をした。

- ・ダイニングチェア

スタイルはWatervlietの椅子を原型にし、背板はH
ancockでつくられた椅子から採用した。又、寸法は座面
の高さを低くし(435mmから400mm)、座の幅(405mm
から440mm)、奥行き(300mmから334mm)ともに長く
した。

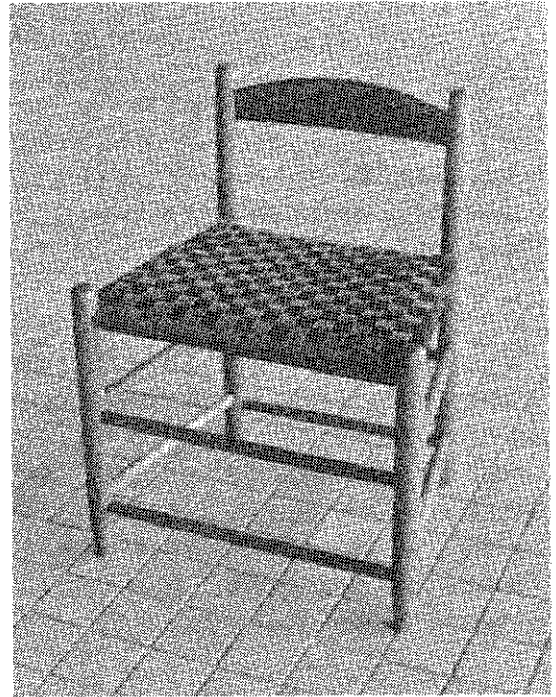
- ・ベンチ

Hancockでつくられたものを長さ(2,540mmから1,820
mm)、高さ(387mmから390mm)ともに変更した。

- ・キャンドルボックス

嵌め底板にし、市販されている蝶番を使用した。

(9) 試作品



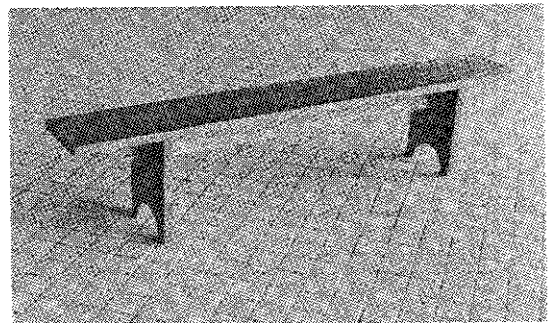
- ・ダイニングチェア

寸法 510 × 410 × 650 mm

材料 タブ

塗装 チークオイル仕上(3回)

座 赤と緑のテープを使用した市松模様

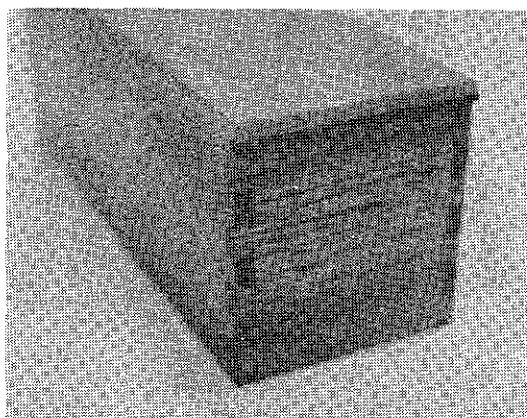
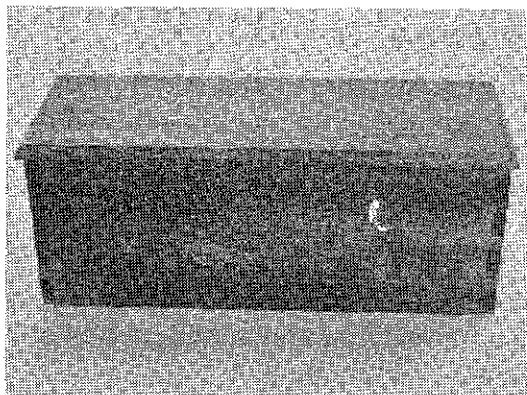


- ・ベンチ

寸法 1,820 × 250 × 390 mm

材料 同上

塗装 "



・キャンドルボックス

寸法 313 × 114.5 × 121 mm

材料 同上

塗装 //

3. まとめ

ダイニングチェアは中央の貫を除き、すべての接合部分には補強のためナラ材の木釘でとめた。片手で軽々と持ち上げられるが、構造的な不安はない。ベンチは、わずか3部材の構成であるが、通し片蟻掛け吸付きと相欠き接ぎとを併用し、仮組みでも十分な強度がでるほどの構造である。キャンドルボックスは蟻組みのため手仕事を中心になる。

これらは、構造が外に表われているので手抜きのできない正確な仕事が必要される。現在まで5種21点の製品が完成し、業界移転へ向けて準備中である。来年度はダイニングテーブルとハイバックチェアを試作する予定である。

参考資料

- ・ John Kassay, The Book of Shaker Furniture
- ・ Robert F. W. Meader, Illustrated Guide to Shaker Furniture
- ・ Edward Deming Andrews and Faith Andrews, Shaker Furniture
- ・ Thos. Moser, How to build Shaker Furniture
- ・ John G. Shea, The American Shakers and Their Furniture
- ・ Edward Deming Andrews and Faith Andrews, Religion in Wood
- ・ 鹿島出版会, スペースデザイン

